

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0475201117
法人名	メディカル・ケア・サービス東北株式会社
事業所名	愛の家 グループホーム 仙台岩切
所在地 (電話番号)	仙台市宮城野区岩切字稲荷 (電 話) 022-396-3533
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 6 月 17,18日

【情報提供票より】(平成 20 年 6 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤	19 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 19.9

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造平屋 1 階建ての 階 ~ 1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	64,250 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	○有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		825 円

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	27 名	男性	7 名	女性	20 名
要介護1	3 名	要介護2	10 名		
要介護3	12 名	要介護4	2 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 82 歳	最低	54 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	のむら内科・心療クリニック 仙台東脳神経内科 遠藤外科クリニック 小野寺歯科クリニック
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街と田園に囲まれたこのホームはけやき・あおば・かえでの3ユニットからなり、開設して5年目を迎えた。法人本部は埼玉県にある。各ユニットごとに特徴があり、「ゆったりその人に合わせた支援を心がけ、午前中に入浴して午後はゆっくり過ごす」「レクリエーションに力を入れ、創作手芸や体操・歌などの楽しみごとを支援する」「自立度が高いので個々にあった支援をする」など3ユニットとも入居者のゆったりした流れの中に生き活きた生活ぶりがみられた。終末期についても二人の看取りを経験し、教わるが多々あったという。亡くなられた後も家族の相談に応じたり、「これからも最期の瞬間まで介護を続けたい」という方針である。ホームとして地域との関係を深め、入居者の自立度を上げて全般の役割の支援をしたい。業務的にならずゆったりと寄り添って支援したい等検討中である。前回の評価を機会として綿密なケアプランに改善した事は評価したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点である理念の見直し・行政側への積極的な働きかけ・共同のカンファレンス・ショウトステやデイサービスを利用できる新たなホーム事業の展開・夜間入浴の支援検討・役割楽しみごとの積極的な取り組み・非常時の職員召集・代替食の栄養価分析の実現など全て改善されていた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>朝礼で外部評価を受けることを話し、ユニットごとにスタッフ全員に記載してもらいリーダーが確認し管理者がまとめた。そのことで代替食や体調不良の人への食事の工夫等の改善点がみえてきた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に一度ずつ定期的に開かれている。入居者家族・民生委員・地域包括支援センター所長・町内会長・児童主任・管理者・事務担当と多彩なメンバーで活発な意見が出されている。委員からの提案で非常口の階段を車椅子利用者に対応してスロープに改善した事により避難訓練の時間が短縮した。災害時に地域からの協力を得られるようお願いしたり、今後はホームを避難場所に提供することなどを提案して具体的な協力体制を築けるようように検討し良好な関係を築きたいとしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情受付機関の掲示や意見箱を玄関先に設置している。家族のホーム来訪時に話し合ったり、家族アンケートを実施して意見を吸い上げるような工夫をしている。アンケート結果は本社からフィードバックされるので検討課題については改善する努力をしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に入会し行事にも積極的に参加している。盆踊り・お祭り・防災訓練(慰労会にも参加)・運動会(テント張り)散歩時の町内清掃・美化運動等入居者も楽しみながら参加している。子ども会の資源回収への協力し喜ばれている。事業所主催の芋煮会に参加してもらったり、近所の農家から野菜を買うなどして交流している。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念の見直しにあたり職員一人ひとりに紙に書いてもらい集めて検討し、抜粋して作成した。「一、利用者さまとともに明るく元気に」「一、利用者様とともに地域に根ざした環境づくり」地域との関係作り等をうたった理念になった。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は見直しをした結果実践に結び付けられた事例として、地域の人が気軽に立ち寄るようになったことや運営推進会議も地域を意識した議題もあがり日々のケアにも活かしている。消防訓練に消防署立会いから地域の消防団も参加するようになった。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会して地域の行事に積極的に参加し、運営推進会議の委員を仲介者として地域との交流も活発になった。盆踊り・防災訓練・町内会の総会出席・子ども会の資源回収等に協力している。散歩時に親しくなった近所のお宅を入居者が時々訪問してお茶飲みを楽しんでいる。地域の人にも立ち寄ってもらえるよう声掛けしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員皆が自己評価と外部評価の意味をよく理解し、真摯に評価の結果を受け止めて改善に向けて努力している。非常口の階段をスロープに直したりケアプランやモニタリングのやりかた等多々改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催される運営推進会議は事業報告とメンバーからの活発な意見や要望が出され双方向的な会議になっている。問題点の改善や地域との交流等、入居者のサービスに繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	書類の提出や相談に向かい、広報誌「いきいき岩切」を渡すなどしてホームを理解してもらう努力をしている。ホームの行事の案内をするもこれまでは反応があまりなかったが、運営推進会議に区役所から毎回ではないにしても出られるよう検討することになったので期待したい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や電話があった時に話したり、金銭管理については家族と取り決めており出納帳のコピーを月一度ホーム便り・担当職員の手紙と共に送っている。職員の異動は顔写真入りでホーム便り「いきいき岩切」で知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を明示し意見箱も設置しているが特に苦情はない。法人本部から年2回家族アンケートが送られ、全体の結果がホームにフィードバックされる。7項目からなるアンケートは記述式になっているので家族の意見を吸い上げる役割をしていると思われるが、尚満足度調査的な部分があると更に答え易いのではないかと、一考していただけるとありがたい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑えている。数名の離職者による交代はやむを得ない理由によるもので、入居者のダメージを防ぐためにきちんと引継ぎをして紹介している。職員の離職を最小限に抑えるため評価制度やストレス解消等努力はしているが、充分とは言えない。	○	入居者と新人職員の馴染みの関係をできるだけ早く築くと共に、「いきいき岩切」で知らせているが、更に家族との信頼関係を大切に考え新しく交代した職員のアピールが出来るようにしていただきたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が主体となり「勉強企画委員」を運営し、このホームの現場に合った勉強会を毎月行っている。外部からも講師を招き薬剤師からは薬の副作用について、医師からは看取りについて学ぶ等実践に役立っている。段階に応じた外部研修にも有給や希望休を取り入れ参加している。研修テキスト代をバックアップしたり資格を取得した場合には報酬や資格手当を支給し職員の励みになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は宮城県グループホーム連絡協議会仙台中央ブロックの副ブロック長を引き受けている。他のグループホームとの交流を通じて、待機者の紹介や介護用品貸与についての情報を得て介護用ベットを調達し利用するなどサービスに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居するに当たり電話や自宅を訪問して話し合いの機会を持ち、本人と家族の思い・希望などを聴き、馴染みの関係を築きながら利用を始める。6月末から開始される共用型デイサービスは馴染みの関係を築くには最適のサービスであり大いに期待される。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者は職員に「入居者と行動を共にするということろで喜びや悲しみを分かち合ってもらいたい」と話し、日常生活を支え合っている中から、感謝の言葉がお互い自然に出ている。「明元素」「暗病反」のスローガンを張り出しケアに活かしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制を導入しているので「花を植えたい・畑仕事をしたい・食事や家事全般のお手伝い等々」ゆったりとした時間の中で本人の想いを汲み取っている。ほとんどの入居者は話ができるが、把握しにくい場合には表情などから察することができるようにし、職員がいかにその場の空気を読めるかが大切になってくると考えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	前回の外部評価で改善を指摘された重要な項目であり、本部から専門家を講師に招き徹底的に勉強した。その結果一部東京センター方式を取り入れて独自の具体的な介護計画書ができあがった。ケアカンファレンスも本人・家族・ケアマネジャー・管理者・担当者・必要に応じて医師も参加して作成されている。本部には4人の専門の相談員が常勤しているので何かと心強い。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日頃のモニタリングをきっちり把握しているので介護計画の見直しはやりやすく、定期的に行っている。東京センター方式を用いアセスメントとして半年に一度の現状把握に利用している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医受診・外泊の支援・他事業所のデイサービスを利用するなど柔軟に支援している。前回の外部評価がきっかけになり、共用型デイサービス事業を開始することになった。3人の利用が可能で6月末から始まるサービスに期待したい。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には本人・家族が希望するかかりつけ医での受診を支援している。受診が難しくなったりホームでの終末を迎える場合には家族と話し合い、適切な往診医療機関を紹介し良好な関係を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年一人、この6月にもう一人の看取りをしている。「看取りは皆が一丸にならなければ出来ない」事を実感し、感謝の気持ちが湧いてきたという管理者の言葉通り、入居にあたり当初から終末期を迎えたときの希望を家族からも聴いている。重度化した場合には家族・医師・職員全員で方針を共有している。医療連携体制加算があり、それに加えて24時間いつでも駆けつけてくれる医師に恵まれていることは、今後看取りがある場合非常に心強いことである。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳という観点からプライバシーに配慮し、言葉かけや入浴・排泄時には特に気をつけている。契約書に秘密保持について明記し職員にも徹底している。個人情報には適切に保管し、持ち出し禁止である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日に何をしたいか希望を聞いて、できる限り添えるように支援している。園芸(苗から花作り)・民謡を聞く・散歩・家事全般の手伝い・職員との会話・清掃などの他に外食(ラーメン)に行きたいという希望も支援しつつゆったり過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士が作成したメニューが本部から送られてくる。その範囲内で工夫をして調理している。入居者も一緒に手伝い、食卓に並ぶ季節感のある果物なども楽しみのひとつである。職員も一緒に同じものを食べ盛りげなく支援していた。以前に試したことがあるバイキング方式を取り入れるよう考えてみたいということなので、是非実行できるよう検討してもらいたい。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間入浴にも対応できるように勤務体制を変えた。毎日入浴はできるが、拒否する人には足浴を勧めて浴室まで行き、「ズボンが濡れたから」お風呂に入りませんかと促がす工夫をしたり、清拭を行っている。仲の良い人同士での入浴もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ユニットあおばでこの項目の強化目標にしていた役割について、食事の下ごしらえ・入浴後に洗濯機まで脱いだ衣類を持って行き洗う・窓を開ける・モップでの清掃・花の水やり食器拭き等の得意分野を楽しみながらやっている。月ごとの行事や誕生会も楽しみにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや外出の一人ひとりの希望を聞いたり、馴染みのところに出かけるなど、工夫をしているが充分でない。	○	希望があれば出かけてはいるが、日常的な外出はストレスの発散や気分転換になり、季節感を感じて五感の刺激にもなるので体調をみながら個別に合った支援を続けられるようお願いしたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニットごとのドアは開放してあり自由に往来できる。夜間は安全の意味での施錠をしている。防犯上であるとはいえ、日中も玄関の鍵を掛ける事を常態化しているのは入居者にとっては好ましいとはいえない。	○	日中、玄関の施錠を常態化していることは人権上問われるところであり地域との関係性を強めて一考されるようお願いしたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間も想定した避難訓練を年2回行っている。消防署から地元消防団との訓練を試みたかどうかと助言された。6月14日の岩手・宮城内陸地震の時には非番の職員2人が駆けつけ、3人から電話があった。地域から児童主事(運営推進会議メンバー)も駆けつけ、入居者はあわてることなく落ちついていった。非常食は3日分備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み食や代替食などその人に合った食事の提供をしている。本部の管理栄養士がチェックしており、毎日3度の食事の残食量のトータルもきちんと計り記録している。材料の量が適切かなども推し量り水分摂取も管理され、体重測定もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々した廊下から3ユニット自由に行き来することが出来る。華美に飾り過ぎない共用空間は明るく落ちついていて、セミプライベートゾーンも数箇所ずつ設けられ、喫煙所では利用者2名が職員が見守る中談笑しながら食後の喫煙を楽しんでいた。本人の身体機能に合わせた手すりの検討や来客・職員用のトイレのドアに一工夫欲しいところである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に持ち込んだこれまで使っていた馴染みの家具等々が配置され、自分らしい居室になっている。連れ合いの位牌を持ち込んで朝夕ご飯と水を供えている。骨折してベッドから動きにくい入居者が、窓から外を見やすいようにとベッドの位置を移動するなど工夫をしている。		